鉢ケ崎リゾート地区

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/40139

12. 鉢ヶ崎リゾート地区

山　口　　亮　介

1. はじめに
2. 鉢ヶ崎地区の変遷
3. 鉢ヶ崎リゾート
4. 鉢ヶ崎地区での活動
5. おわりに

1. はじめに

鉢ヶ崎地区は、漁業が中心の蛸島において、観光業を行っている特別な地区であり、毎年多くの観光客が訪れている。今回は、この地区がどのように変わってきたのか、またどのような施設があり、どのような活動をしているのか説明し、更に今後蛸島を盛り上げていくためにどういった活動を考えているのかを記していく。

鉢ヶ崎地区に観光スポットが集められている理由として、鉢ヶ崎地区にはリゾートエリアが設けられており、リゾート振興法の中で文化エリア、スポーツエリア、家族キャンプ村などの区分けが行われている。これらの施設が 1 箇所に集められることで、観光客を集めることを目的にしているという。

2. 鉢ヶ崎地区の変遷

2.1　開発以前

鉢ヶ崎地区が現在のように開発される以前の話を、何人かの方々から聞くことができた。

A さん（本貝蔵、男性、60 歳代）

蛸島町の時、今の桜町や栄町などの新興住宅があった土地は全てただの砂山だった。そこに潮

風に強いニセアカシアを植えることで、防風林の役割を果たしていた。

B さん（栄町、女性、70 歳代）

桜町、栄町、旭町などの山であった場所は、そこを開墾すれば畑として自分で使うことができた。土地は市のものであったが、使用者として開墾者を市が認定していた。B さんの家も、B さんが嫁に来る前は畑を持っていたが、義父母が出稼ぎに行っている間に認定が行われたため、認定から漏れてしまった。畑では野菜などが何でも作られ、タバコも育てられていた。

ビーチホテルのある場所は昔松林だった。漁師はその頃漁業の出稼ぎにより約 7 ヶ月で 300 万稼ぐことができ、山を壊して宅地にし、家を立てていた。自分で開拓した土地は、市によって一度取り上げられ、その後正式登録をする形になった。

C さん（栄町、男性、60 歳代）

砂山は緩いスロープのようになっており、草が茂っていた。C さんが小さい頃、砂浜の近くに隣町の人が草を食べさせに親子の牛を連れてきて、遭遇した C さんは驚いたという。切り崩された砂は浜の砂とは違い塩気が無く、価値があったため、市が売買して儲けていたらしい。自分も畑を一枚持っていたが、ビーチホテル前の広場を建設する際に買収されてしまった。

鉢ヶ崎は遠浅の海岸であり、危険だったために遊泳は禁止されていたが、防波堤が整備されると、潮流が変わったために遊泳が可能になった。昭和 30（1955）年頃から蛸島の観光協会が取り仕切るようになり、その後昭和 62（1987）年に市が海水浴場を運営し始めた。そして平成元（1989）年に鉢ヶ崎リゾート振興協会が設立された。

2.2　鉢ヶ崎リゾート振興協会

鉢ヶ崎リゾート振興協会とは、鉢ヶ崎の活性化を目的として、市と町がお金を出し合って（蛸島から 600 万、市から 600 万の計 1200 万）設立された、いわば第三セクターであり、リゾート施設の多くを管理している。初めは市と共同で管理を行っていたが、7、8 年前に指定管理制度が制定された。指定管理者制度とは、それまで地方公共団体等に限定していた公の施設の管理・運営を、株式会社や NPO 法人、市民グループなどの団体にも代行させることの出来る制度であり、この制度のおかげで蛸島の町民だけで管理が行われるようになった。役員も蛸島の人たちで構成されており、町長などの役を行っている人が兼任することもある。

市の管理から民間団体に管理の移ったことの利点として、役員の D さん（本貝蔵、男性、69 歳）は、行政の仕様に沿わなくても良い点を挙げられた。例えば、市が管理していると、週に一

度閉めなければ行けない日が必要だが、民間企業だと、年中無休で営業を行える。これは、いつお客がやってくるかわからない観光業において、非常に重要な点であると思われる。

このように話を聞いて、鉢ヶ崎地区は蛸島において比較的最近になって開発された土地であることがわかる。今では様々な施設が立ち並んでいる場所に、昔は砂山があったことや、海水浴場となっている場所が遊泳禁止だったことに驚いた。そして、B さんの話であるように、半年近くの漁業の出稼ぎで家を建てることができたという話を聞いて、やはり蛸島の漁業は非常に盛んだったということがわかる。

3. 鉢ヶ崎リゾート　施設と管理団体

鉢ヶ崎地区にあるレジャー施設一帯は、「りふれっしゅ村鉢ヶ崎」という名称で呼ばれており、平成 4（1992）年 8 月 29 日に開村した。ここにある施設は、鉢ヶ崎リゾート振興協会、珠洲市スポーツ振興事業団、珠洲市、珠洲市鉢ヶ崎ホテル㈱、その他の組織のいずれかによって管理・運営が行われている。ここでは、珠洲市役所でいただいた資料、「りふれっしゅ村鉢ヶ崎整備概要」を基に、施設の説明と、どの団体がどの施設を管理しているか、また記載されている施設の開設時期、面積について記述する（表 1）。

3.1　鉢ヶ崎リゾート振興協会の管理施設

鉢ヶ崎リゾート振興協会は、鉢ヶ崎海水浴場、海浜ケビン、珠洲焼館、陶芸センター、珠洲家族キャンプ村、巨大遊具場の管理を行っている。

・鉢ヶ崎海水浴場

昭和 62（1987）年にオープンした海水浴場で、前述のとおりはじめは市が運営していたが、平成元（1989）年からは振興協会が運営している。蛸島では珍しい遠浅で、「日本の渚 100 選」に選定されている。非常に透明度のある海で、観光客からも好評である。

・海浜ケビン

多様化する観光・宿泊形態のニーズに対応し、家族やグループが低廉な費用で自然を満喫しながら滞在する宿泊の拠点づくりと個性ある宿泊施設の整備をはかって作られた。オープンは平成 4（1992）年 7 月 1 日。面積は管理棟 1 棟、ケビン 10 棟で 2.0ha。

・珠洲キャンプ村

余暇時間の増加に対応し、家族が気楽に長時間滞在できる施設として作られた。ここはテントだけでなく、サニタリーハウス 3 棟やキャンピングトレーラーハウス 10 棟も置かれている。平成 8（1996）年 7 月 20 日にオープンした。総面積は 7.5ha。

・珠洲焼館

珠洲市が管理している珠洲焼資料館とともに、珠洲でかつて作られていた「珠洲焼」の復興を目的として建てられ、昭和63（1988）年4月1日にオープンした。ここでは珠洲焼の展示、販売を行っており、文化面の充実を図るとともに、陸域部のスポーツ施設を中心とした開発と合わせ、リゾート地としての基盤整備を行うことで民間活力の導入をはかり、雇用機会の拡大、地域産業の活性化を目指している。　面積は海水浴場、珠洲焼資料館と合わせて10ha。また、平成6（1994）年に珠洲や期間があった場所にビーチホテルが建てられることになったため、曳方移設を行い現在の位置に移動した。

・陶芸の里

珠洲焼資料館や珠洲焼館とは違い、実際に陶芸を体験することの出来る施設。平成7（1995）年4月19日にオープンした。観光客に体験してもらうことによる観光産業の機能強化だけが目的ではなく、地元の若年層や都会からIターンしてきた人などを対象に陶芸に興味を持ってもらい地場産業の復興につなげていく目的もある。面積は築窯、陶芸センター、薪小屋など合わせて0.5ha。

・健康運動広場、巨大遊具

建物そのものが巨大な遊具施設になっている遊具場と、その周りの広場。巨大遊具は平成7（1995）年12月に完成し、運動広場は平成8（1996）年6月8日にオープンした。面積は9.0ha。

3.2　珠洲市スポーツ振興事業団の管理施設

珠洲市スポーツ振興事業団は多目的広場、テニスコート、珠洲市市営野球場、グラウンドゴルフ場などの、屋外スポーツ施設の管理を行っている。多目的広場は平成4（1992）年5月17日にオープン、テニスコートは平成5（1993）年10月31日にオープン、市営野球場は平成3（1991）年5月19日にオープンした。

これらの施設は、観光客が使用するだけでなく、市民が憩いの場として利用することも考えられている。グラウンドゴルフ場は、特に高齢者の健康づくり、生きがいづくりの場として使われることを目的としている。

野球場1面、テニスコート8面、多目的広場を合わせて総面積19.0ha、グラウンドゴルフ場は3.6haである。

3.3　珠洲市の管理施設

珠洲市は珠洲焼資料館、花き栽培センター、フラワーパーク鉢ヶ崎、文化交流拠点施設「勝東庵」の管理を行っている。

珠洲焼資料館は、珠洲焼館の箇所で説明したように、文化面の充実を図ることを目的に、かつ

て作られていた珠洲焼に関する資料や歴史の説明を行っている。栽培センター、フラワーパーク鉢ヶ崎は、花の高級化と国内需要の増加に呼応し、花の里珠洲構想を核として花卉の生産振興と豊かなまちづくりを目指して作られた。しかし、利益が見られないため、別の団体に委託する考えが出てきている。

珠洲焼資料館は平成元（1989）年4月1日、花き栽培センターは平成7（1995）年4月1日、フラワーパーク鉢ヶ崎は平成9（1997）年4月1日にオープンした。

花き栽培センターと、フラワーパーク鉢ヶ崎の面積は、合わせて6.0haである。

3.4　珠洲市鉢ヶ崎ホテル（株）の管理施設

名前のとおり、珠洲ビーチホテルを運営している。ホテルは、全国海づくり大会に合わせて作られており、平成8（1996）年6月15日にオープンした。その建築には県のリーディング・プロジェクトから費用が出されている。リーディング・プロジェクトとは、珠洲市を含む2市4町1村を対象とした県主体の事業で、その地区で行おうとしている取り組み一つに対して県が予算を出すというものである。

3.5　その他の団体

平成14（2002）年7月5日にオープンした鉢ヶ崎温泉「すずの湯」は、初め珠洲市鉢ヶ崎ホテル㈱によって管理・運営されていたが、平成18（2006）年より株式会社エイムが、更にその後地元の企業「のと企画」によって行われている。株式会社エイムからのと企画へと変わった理由として、外の企業から公募すると、そのうち人件費の削減などで地元の考えと弊害が生まれてしまうというものがある。そのため、リゾート地区の施設は地元に関係の深い企業が管理している。

3.6　鉢ヶ崎ビーチホテル

ビーチホテルは、鉢ヶ崎リゾートの「表玄関」として、リゾート地区の中心になるように建築された。1階はレストラン、2階から5階は150人までが泊まれる客室になっていて、6階から8階はトレーニングジムやプールのあるウェルネス施設となっている。経営は、観光客が訪れそれなりに儲かっており、2年ほど前（2011年）から安定してきている。

レストランは、サービス向上の一環として数年前に料理長が珠洲出身の有名なシェフに変わり、地元の食材を使った料理で好評を得ている。宿泊はしなくても、ランチだけを利用する観光客もいるという。しかし、Dさん（脇浜本町、男性、50歳代）は、地元の人達は、ホテルの少量ずつ料理を出す方式はあまり好まないと話していた。

蛸島の人たちは、宴会や会議でホテルを利用することはあるが、宿泊客はほとんどいない。ま

た、昔は役所がホテルの宴会場を利用するよう奨励していたが、現在はそのようなことは行われていない。

表１　鉢ヶ崎りふれっしゅ村　管理団体と施設名

管理団体	施設名
鉢ヶ崎リゾート振興協会	鉢ヶ崎海水浴場（オープン S62.7） 珠洲焼館（オープン S63.4.1：完成 S63.3.20 再オープン H7.4.1） 海浜ケビン（オープン H4.7.1） 健康運動広場（オープン H8.6.8） 巨大遊具（オープン H7.12） 珠洲家族キャンプ村（オープン H8.7.20） 管理棟（完成 H8.7） サニタリーハウス（完成 H8.6） トレーラーハウス（完成 H7.10） 陶芸の里（オープン H7.4.19）
珠洲市	珠洲焼資料館（オープン H 元 4.1） 花卉栽培センター（オープン H7.4.1） フラワーパーク鉢ヶ崎（オープン H9.4.1） 文化交流拠点施設勝東庵（オープン H6.8）
珠洲市スポーツ振興事業団	多目的広場（オープン H4.5.17） 珠洲市営野球場（オープン H3.5.19） テニスコート８面（オープン H5.10.31） グラウンドゴルフ場（オープン H13. 10.29）
珠洲市鉢ヶ崎ホテル㈱	珠洲ビーチホテル（オープン H8.6.15）
のと企画	能登半島鉢ヶ崎温泉すずの湯（オープン H14.7.5）

（出所：「りふれっしゅ村鉢ヶ崎整備事業」）

ビーチホテルは、鉢ヶ崎で行われた全国豊かな海づくり大会に合わせて建設された。全国豊かな海づくり大会とは、全国豊かな海づくり推進協会によると、「魚食国である日本人の食卓に、安全で美味しい水産食料を届けるために、水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民に訴えるとともに、つくり育てる漁業の推進を通じて、明日のわが国漁業の振興と発展をはかること」を目的として行われている大会で、蛸島では平成８（1996）年に開かれた。天皇・皇后両陛下が臨席する行事となっており、両陛下も宿泊された。また、建設当初はのと鉄道を鉢ヶ崎まで伸ばすことが計画されていたが、国の鉄道建設に対する方針が変わり、立体交差を作らなければならなくなったため、莫大な資金がかかるようになり中止となった。

このように施設を見てみると、蛸島の自然を活かした海水浴場やキャンプ場、蛸島の文化を楽

しんでもらうための珠洲焼資料館などの文化施設、観光客だけでなく、市民も活用できる運動施設など、様々な種類の観光施設があることがわかる。そしてそれらの施設が固まって作られているために、気軽に各施設を見て回ることができ、様々な体験をすることができるようになっている。宿泊施設もケビン、キャンピングカー、リゾートホテルと揃っており、蛸島の魅力を一度に楽しめる観光地になっていると思われる。

また、ただの観光地にするだけではなく、陶芸の里による陶芸家の育成や、花卉栽培センターなど、地元産業を盛り上げていこうとする働きも、これからの観光業界にとっては重要な活動だと思われる。これからも地域産業との結び付きを強め、活性化していってもらいたい。

4. 鉢ヶ崎地区での活動

鉢ヶ崎地区では観光施設があるだけでなく、海づくり大会のように、様々な取り組みが行われる。それらイベントの説明や、今後市や観光協会がどのように鉢ヶ崎を盛り立てていくか、また蛸島の人は鉢ヶ崎の開発についてどう考えているのかを記述していく。

4.1 鉢ヶ崎地区で開催されたイベント

4.1.1 トライアスロン珠洲大会

トライアスロン珠洲大会は、今年（2013 年）で第 24 回を迎えた大会で、毎年 8 月下旬におこなわれている。タイプは走る距離や団体、ジュニアなどで分けられ、毎年非常に多くの選手が参加している。2013 年は 1 番長い A タイプを走った人が 900 人（完走 779 人）、A タイプより短い B タイプを走った人が 541 人（完走 502 人）、リレー形式の R タイプ（3 人 1 組）を走ったチームが 23 チーム（完走 17 チーム）、小学 4 年～6 年の選手が走るジュニアタイプが 98 人（完走 98 人）で合計 1569 人が参加した。

レースの開始位置とゴールは鉢ヶ崎リゾートホテルの前であり、そのためにホテルの前は毎年大変な人の数になる。また参加する人の多くは市外から来るために、大量の宿泊施設が必要になり、現状珠洲市内すべての宿泊施設を使っても足りない状況にある。そのため、宿泊施設の増加など、何らかの対策を取らなければならないと思われる。

4.1.2 太鼓と踊りの夕べ

珠洲市で行われる夏祭りのフィナーレを飾るイベントとして、毎年 8 月 16 日にりふれっしゅ村鉢ヶ崎で開かれる祭りで、地域で伝承されてきた鬼面太鼓やまつり太鼓や民謡、その他にも YOSAKOI ソーランなど、様々な伝統文化を披露する内容になっている。蛸島からも、キリコが 4

台出される。以前は振興協会が運営を行っていたが、現在はトクサ会という団体が運営を行っている。

4.1.3　日本ジャンボリー

日本ジャンボリーとは、国内で行われる最も大きなボーイスカウトの行事であり、その第14回が平成18（2006）年8月3日から8月7日までの間に、りふれっしゅ村鉢ヶ崎を会場として開かれた。最大の行事ということで、日本全国のみならず海外からも参加者が訪れ、約2万2000人が鉢ヶ崎に集まった。

ジャンボリーを行うには、キャンプ場を作るための土地が大量に必要になるため、付近の土地で畑をしていた人の多くが土地を売ったらしい。しかし、現在はその土地は何にも利用されておらず、草が生え放題の状況になっている。また、イベントを行うには当然地元の人の協力も必要で、そのためにジャンボリーが開催された時期は蛸島の記録を確認するための常会が開かれた。

4.1.4　映画「さいはてにて」の撮影

今年（2013年）の9月12日から、能登を舞台とした映画「さいはてにて」が撮影される。この映画のロケの為に、鉢ヶ崎のケビン8棟が9月19日から50日ほど貸し切られる。

このように、鉢ヶ崎では様々なイベントが開催されており、いずれも蛸島の自然や伝統を活かしたものとなっている。トライアスロン大会は、私たちが本調査で蛸島を訪れた時期と重なって開催されていたが、まさに街中を上げてのイベントといった様子だった。しかし、リゾート施設で開かれるイベントの数としては、若干少ないようにも感じる。また、鉢ヶ崎のリゾート施設というよりは、土地だけを利用しているようにも思われる。珠洲焼館やキャンプ施設など、様々な施設があるのだから、それらの施設を関連させたイベントが行われないのはもったいないように思われる。鉢ヶ崎に訪れる観光客数の数を増やすのであれば、鉢ヶ崎の観光施設を利用したイベントを考えることがさらなる活性化につながっていくのではないだろうか。

4.2　今後計画している活動

鉢ヶ崎地区の今後について、市役所の観光交流課の方と、振興協会の役員のEさん（本貝蔵、男性、60歳代）に話をうかがった。

・市役所　観光交流課

珠洲市への観光客は、近年増加している。大きな理由として、のと里山街道の無料化があげられる。今まで有料だった道がただになったことで、「今まで行けなかった遠いところに行ってみよう」と考える人が増加したためと考えられる。珠洲市でも、観光客を増やすために、旅行サイト

への宣伝、JTB との協力、サービスの向上（ホテルの料理長の交代など）といった活動を行っている。

また、建物の老朽化も見られるために、街道の無料化に伴い、施設の見直しが行われている。

鉢ヶ崎リゾートの今後の展開としては、健康と旅行を組み合わせたヘルスツーリズムが考えられている。現在トレーニングジムなどのあるホテルの 8 階のウェルネス施設にリラクゼーションルーム、海岸にウォーキングコースなどを作り、ヘルス用の食事をつくといったことが検討されている。これらの計画は上記した JTB と連携して、宣伝を行う予定である。

・E さん（本貝蔵、男性、60 歳代）

鉢ヶ崎リゾートは、リピーターの数が多い観光地である。例えばケビンは、2 月から 8 月の予約を取り始めるが、リピーターによってすぐに埋まってしまうといった状況である。

今年は里山街道の無料化によって初めて訪れる人の数が大きく増えた。このようなお客をリピーターにしていくことが、今後の発展において重要になってくる。いつ来るかわからないお客様をおもてなしするには、いつでも施設を楽しめる状態にしておく必要があり、そのためには市が管理する施設の休日のある体制（2.2　鉢ヶ崎リゾート振興協会参照）や、予約制でしか食べることのできない能登丼などは変えていく必要がある。

また、鉢ヶ崎リゾートは自然を利用した商売であるため、猛暑や大雨などでキャンプや海水浴場が使えなくなるといった弊害を受けることもある。そのため、トレーラーハウスの増設・更新や、総合体育館の開設といった室内で楽しめる施設も必要になってくるだろう。他にも、屋内施設の利用も含めた冬場の観光も考えている。その一つとして、夏はウォーキングコース、冬はノルディックが行える道を作ることを検討している。

更に宿泊施設も増やし、観光客だけでなく大学の合宿（スポーツ関連など）でも訪れてほしい。

これらの要望書は、鉢ヶ崎の振興策として市に提出をする予定である。

4.3　蛸島の一般町民の意見

振興協会や、市役所とは関係のない地元の一般住民にも話を聞いてみた。

F さん（東貝蔵、男性、60 歳代）

観光バスで大量の観光客が訪れていたのは 2、30 年前。自然が珍しかった。現在リゾートができたからといって蛸島が変わったという感じは薄い。お金をかけたほどではないのではないか。

G さん

夏になるとかなりの観光客が訪れているが、町の人が利用することは殆どない。ホテルにご飯を食べに行ったり、スイミングスクールに行ったりするぐらいではないか。海水浴場も、周りはどこでも海があるため、わざわざそこまで行かない。ただ、あの地区があるために地元の人にも働き口ができているために、必要であると思う。

今後も鉢ヶ崎地区ではその自然や立地を活かした新たな活動を計画していることがわかる。その中で重要になってくるのはやはり能登里山街道の無料化による新規の観光客の獲得である。珠洲市へ訪れる手段が増えてきている現状を踏まえて、何度でも訪れたくなるような魅力ある鉢ヶ崎を作っていく必要があると考えられる。

しかし住民から話を聞く限りでは、あまり観光地区に興味を示さない人も少なからずいると感じられた。蛸島は漁業で発展してきた町なので、観光への関心が薄いのも仕方がないのかもしれないが、これからの蛸島の発展のことを考えると、今後は町全体が観光に関わって盛り上げていく必要もあるのではないだろうか。

5. おわりに

私は、初めにも書いたように、漁業が中心の蛸島において観光事業を行っている鉢ヶ崎という土地において、どのようにして活動を行っているのか、他の観光地とは異なる点があるのか気になり調査を始めた。このような調査を行う機会というのはあまりないために、どのようなことを聞けばよいのか、質問の仕方が正しいのか不安に思う点もあったが、質問した皆様は快く応じて下さり、また鉢ヶ崎に対する思いを強く語って頂いた。

まだ調査しきれていない部分もあり、十分な報告書とは言えないかもしれないが、関わった市役所の方々、振興協会の方々、またそれらには関わっていない一般住民の方々には本当にお世話になりました。最後になりますが、皆様に心からお礼申し上げます。